

遊佐町共同開発米の米日記



毎年恒例小学生の稲刈り



未だ現役の杭掛け



稲の生命力はすごい！



鳥海山に雪！



冬を告げる白鳥の飛来



22年稲作に向け早くも準備

遊佐は10月に入ってから稲刈りは続いています。今年は7日～9日かけて大型台風18号が日本を直撃した訳ですがその後、台風の大被害もなく稲刈り作業をする事ができました。

毎年恒例の小学生との稲刈りは全員で稲を手刈りして、杭掛け(杭を立てて、刈った稲束をくくりつけ自然乾燥させる)をします。機械に比べ手間は掛かりますが大勢で取り組めば楽しんで、あっというまに終了です。中山間の小さな田んぼなどでは、未だに穂掛けは現役で昔は一人で10a(約32メートルの四方の面積)刈取り農家もいたそうです。

早めに収穫作業を終えた田んぼの稲の株から新しい緑の芽がでています。2期作できる温暖は地域では、刈取り後にこの稲を飼料として利用する取組みを始めているようです。

夜になると大分冷え込んできて、10月10日鳥海山も初雪を観測しました。今年の初雪は平年並でそれにつられるよう冬の使者「白鳥」も遊佐に飛来です。

昨年もお伝えした通り、収穫が終わったからと言って稲作が終了した訳ではありません。平成22年に向け堆肥を田んぼに投入したり、稲藁の腐敗を進める為軽く耕起したりと品質の良いお米を育てる手間は惜しみません。